

**2026年度グローバル教養学部
帰国生徒(外国学校就学経験者)入学試験**

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	日程	志願者数	最終合格者数
グローバル教養学部グローバル教養学科 RU-ANU専攻	1期	33	31
	2期	18	7
	計	51	38

(2) 本入学試験の目的

グローバル教養学部グローバル教養学科は、グローバル化した世界にふさわしいリベラル・アーツの学びを総合的に英語で学ぶことによって、グローバル化する社会のなかで実践的に問題発見・問題解決をリードし、学び続けることのできる人材を育成します。日本とオーストラリア両国での学びを通じて、多文化社会に生きる人々と協働し、将来、日本、アジア、そして国際社会のリーダーとして貢献することに強い意欲を持つ生徒の受験を期待しています。本入学試験は、高等学校などの成績や、エッセイに基づく書類選考を通じて、アドミッション・ポリシーに定めた素養と資質、学力、関心を有する学生を受入れることを目的としています。

2. 試験内容

高等学校等の成績、およびEssay (300字) を総合的に評価します。Essay のテーマは以下の通りです。

Write an essay that demonstrates how your academic interests align with the dual-degree program at the College of Global Liberal Arts (GLA). Discuss your current academic interests by reflecting on the experiences and academic insights you have gained through various opportunities. Then explain how you plan to pursue these interests through your studies in this program.

3. 出題の意図

本学部のEssay課題の目的は、志願者が出願時点において「リベラル・アーツの学び」をどのように理解しているのかを確認し、一般論としてではなく自身の言葉によって、志願者の学修意欲や問題関心を論述してもらうことにあります。あわせて、志願者が本学部におけるデュアル・ディグリー・プログラムの仕組みをどのように理解し、入学後の学修に向けてどのような準備を行っているのかについて、その主体性を把握することも目的としています。

さらに、志願者がこれまでの多様な経験を通して、グローバル化した世界や社会課題のありようをどのように捉え、それらにいかに向き合おうとしているのかを読み取り、志願者の思考の傾向や行動の特徴といった行動特性を把握することも意図しています。

これらの観点を踏まえ、Essay全体の記述内容を通して、本学部のアドミッション・ポリシーに定められた素養および資質を備えているかを総合的に審査しています。

4. 評価のポイント

Essayは総合的に評価されるが、上記「出題の意図」を踏まえ、とくに次の観点が重視されます。

まず、志願者は、公表されている情報に基づき、本学部のデュアル・ディグリー・プログラムの基本的な仕組みや性格を理解しているかが問われます。同プログラムは、本学部（立命館大学）において「リベラル・アーツの学び」を深めるとともに、オーストラリア国立大学（ANU）においてアジア太平洋学を修めるものです。原則として4年間で2つの大学から2つの学位を取得することを前提としており、入学後の学修計画や留学準備を見据え、主体的な学修者として十分な準備ができているかが、審査の重要なポイントとなります。

また、文章表現については、最終的に自身の判断として、出願書類にふさわしい英語の文章表現を整えられるかが審査されます。Essayでは、志願者がこれまでの多様な経験を、自身の視点と問題関心から振り返り、それを自分の言葉で表現することが求められます。AIが整え得る一般的な志望動機や学修計画ではなく、志願者にしか書けない内容や、志願者自身の工夫が読み取れる文章構成や表現力は高く評価されます。

5. 解答状況

多くの志願者が、本学部の求める英語力、文章表現力、ならびに論理的説明能力を備えていました。ただし、内容の面では、評価結果は大きく三つの層に分かれました。

上位層のEssayは、本学部における「リベラル・アーツの学び」の特徴とデュアル・ディグリー・プログラムの仕組みを十分に理解したうえで、入学後の学修計画を、自身のそれまでの経験や問題関心と結びつけながら、具体的かつ論理整合的に論述するものでした。中位層のEssayは、志願者自身の経験や視点が具体的かつ説得的に記述されている一方で、学術的な掘り下げが不足していたり、「リベラル・アーツの学び」および「アジア太平洋学」とのつながりについての説明が十分でなかったりするものが多く見受けられました。下位層のEssayは、一般的かつ抽象的な志望動機の説明にとどまり、「リベラル・アーツの学び」やデュアル・ディグリー・プログラムについて、公表されている情報と大きく異なる認識が示されているものも見られました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

グローバル教養学部では、すべての科目を英語で学びます。入学後は、アカデミックな環境における教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通じて、英語による豊かな表現力と言語運用能力をさらに高めていきます。その土台となる基礎的な英語力を、事前に十分備えていることが不可欠です。入学後に主体的に授業へ参加できるよう、読む・書く・聞く・話すの四技能をバランスよく身につけることを目指してください。

また、本学部は、立命館大学とオーストラリア国立大学（ANU）の2つの学位を取得するデュアル・ディグリー・プログラムです。書類審査のEssayでは、立命館大学グローバル教養学部において何をどう学びたいのかという点のみならず、ANUのCoral Bell School of Asia Pacific Affairsにおいて何を学びたいのかという点についても、明示的・具体的に述べられていることが必要です。

英語力も思考力も、日々の努力と積み重ねによって身につけていきます。本学部を目指される皆さんは、日頃から様々な社会問題に目を向け、それに対する自身の理解と考えを深める努力をするとともに、自らとは異なる意見や立場があることにも注意を払い、勉学に励んでください。

以上